

平成 30 年度 第2次総合計画 施策マネジメントシート
(平成 29 年度の実績評価)

作成日 平成 30 年 7 月 25 日
更新日 平成 年 月 日

総合計画体系	政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある快適なまちの形成	施策主管課	企業局 総務課
	施策No.	18	施策名	上下水道の整備	施策主管課長名	八田 房男
施策関連課名			環境課、下水道課、企業局経理課、料金課、工務課、浄水管理課			

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)
市民 基幹管路 下水道整備区域内に生活する市民	安定的な水道水の供給 いつでも安心しておいしい水が飲める 生活雑排水の処理が適正に行われ、河川の悪化を防ぐ
対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
① 対象指標	ア 市人口	人	見込み値			72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
			実績値	72,963	72,715	72,305	72,018	71,880		
	イ 基幹管路延長	m	見込み値			105,066	105,066	105,066	105,066	105,066
			実績値	172,652	105,066	110,370	110,566	112,752		
	ウ 衛生処理人口	人	見込み値			49,870	51,261	52,690	54,162	55,674
			実績値	47,879	49,293	49,282	50,157	51,340		
② まちづくり指標	A 基幹管路の耐震化率	%	目標値			26.0	27.0	28.0	29.0	30.0
			実績値	24.4	30.3	29.6	30.0	31.8		
	B 「水道の水はおいしい」と回答した市民の割合	%	目標値			61.2	61.4	61.6	61.8	62.0
			実績値	61.0	66.2	63.9	61.0	66.0		
	C 生活排水水酸化率	%	目標値			87.2	87.3	87.4	87.5	87.6
			実績値	87.0	88.1	90.2	90.1	91.1		
	D 生活排水整備率	%	目標値			69.1	71.2	73.4	75.7	78.1
			実績値	65.6	67.8	68.1	69.6	71.4		
	E		目標値							
			実績値							
まちづくり指標設定の考え方		A: 安定供給対策の進捗度を示す。 【水道統計に基づく報告値】 B: 水道水に対する市民の評価を示す。 【市民アンケートの『水道の水はおいしいと感じますか』において、「感じる」「まあまあ感じる」と回答した人の割合】 C: 汚水処理施設による生活排水の適正処理状況を示す。 【(公共下水道水酸化人口+農業集落排水水酸化人口+合併浄化槽処理人口+コミュニティプラント処理人口)÷衛生処理人口】 D: 汚水処理施設の整備に対する進捗度を示す。 【衛生処理人口(公共下水道処理区域内人口+農業集落排水処理区域内人口+合併浄化槽処理人口+コミュニティプラント処理区域内人口)÷総人口】								
目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)		A: 水道ビジョンに基づき、5年間で約5%の増加を目標値に設定 B: 5年間で約1%の増加を見込む[10年間で過去アンケート調査結果の最高値(H23年度62.4%)と同程度を目標値として設定] C: 山梨県生活排水処理施設整備構想2014策定資料(推計値)により、目標値を設定 D: 山梨県生活排水処理施設整備構想2014策定資料(推計値)により、目標値を設定								

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数	5	4	4	4	4	5	
関連事業予算額(単位:千円)	1,361,014	1,281,768	1,208,486	1,227,099	1,214,600	1,322,760	
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	0	0	0	0	0
	県支出金	14,000	14,000	16,650	15,750	23,565	19,406
	地方債	201,300	92,400	0	0	0	69,700
	その他	0	0	0	0	1,000	489
	一般財源	1,145,714	1,175,368	1,191,836	1,211,349	1,190,035	1,233,165

4 評価結果(施策の有効性評価)

<p>① 目標達成度評価 (目標値と実績値との比較)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった</p>	<p>※左記の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹管路の耐震化率は、計画的更新により昨年を「1.83ポイント」、目標値を「3.8ポイント」上回る31.8%(H29年度末)を達成。 ・市民アンケートでの「水道水のおいしさ」度では、肯定系が66%あり目標値を大きく上回った。 ・生活排水水洗化率は、前年度より0.1ポイント増加したが91.1%と横ばいである。しかし、目標値(87.4%)を上回った。 ・生活排水整備率は、前年度より1.8ポイント増加し71.4ポイントとなったが、目標値(73.4%)を下回った。
<p>② 時系列比較(基本計画現況値からの推移)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した</p>	<p>※左記の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹管路の耐震化率は、計画的更新により平成26年から各年度とも目標値は上回っている。平成29年度は、駒場浄水場系管路更新事業及び老朽管更新事業の国庫補助事業を取入れたことにより1.83ポイントと大きく上昇した。 ・市民アンケートの「水道水のおいしさ」に対する満足度は、減少傾向から66%と回復した。 ・市民アンケートによる排水処理施設の整備に対する満足度では、肯定派が前年度より4.9ポイント上昇し、否定派は1.9ポイント減少している。 ・生活排水水洗化率及び生活排水整備率は、平成29年度の目標値に対し、前者は3.7ポイント上回り、後者は2.0ポイント下回っている状況ではあるが、漸次増加している。
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <p><input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> ほぼ同水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である</p>	<p>※左記の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹管路の耐震化適合率全国平均(H28年度末厚生労働省データ)38.7%、山梨県平均34.6%に対し、本市は30.0%と何れにも下回っている。 ・生活排水整備率は、本市が71.4%(平成29年度末)であるのに対し、全国平均が89.9%(平成27年度末)、山梨県平均が81.3%(平成28年度末)、近隣では韮崎市が85.5%、甲斐市は87.3%(平成28年度末)となっており、14.1ポイントから15.9ポイント下回っている。
<p>④ 住民の期待する成果水準との比較</p> <p><input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> ほぼ同水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である</p>	<p>※左記の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートの「水道水のおいしさ」に対する満足度は、前年から5ポイント増の66%となり、本市の水道水は「おいしい」と認知されている。 ・市民アンケートにおける下水道などの排水処理施設の整備に対する満足度の肯定系は、45.5%と低いが、重要度は重要系が71.3%で瑣末系の6.6%(平成30年度調査結果)を大きく上回っていることから、排水処理施設整備に対する期待度は大きいと市民が期待する成果水準には達していないことが伺われる。

5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

施策の課題 (現状の問題点)	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
施設の老朽化	持続可能な供給を目指すため、計画的な施設の更新及び耐震化をすすめる。	・施設の重要度や優先度を考慮したうえで、実使用年数の調査結果を基に策定した中長期計画に基づき、施設の更新及び耐震化を計画的に進める。
良好な財政環境の構築	平成29年度策定の経営戦略をもとに、経営基盤の強化を図り、中長期計画を反映した実施計画を確実に推進する。	企業債の借入と自主財源(料金収入等)のバランスを図りながら、健全経営による安定的な事業継続のため「市水道事業経営戦略」をもとに経営基盤の強化を図り、中長期方針に基づいた実施計画による事業を実施する。
下水道事業の普及率及び加入率が低い	・今後の下水道整備方針として、平成28年度策定したアクションプランに基づき、整備促進を図る。 ・広報や戸別訪問などにより、未加入世帯の加入を積極的に行なう。	・アクションプランに基づき、優先度の高い地域から下水道整備を実施する。 ・未加入世帯を抽出し、戸別訪問による加入促進やパンフレットなどによるPR活動を積極的に行なう。
下水道事業は、一般会計からの繰出金への依存度が高い	・下水道事業の適正運営に向け、下水道使用料の見直しを行なう。 ・下水道事業の適正運営に向けた公営企業会計移行業務を進めていく。	・平成15年度より改定のない下水道使用料について、国が示す標準的な使用料単価及び近隣市町の状況を参考に使用料の見直しを進める。 ・平成31年4月1日の公営企業会計移行に向け、組織体制の整備、システム構築等の業務を進めていく。